

## 平成 28 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■荒砥地区：7月20日（水）午後7時30分～9時                      参加者数 50名

Q. 消防分署の建設が始まったが、近隣への説明が遅かったように思う。複合施設の工事が始まる際の地域住民への説明会についてはどのように考えているのか。また説明会の回数は1回だけでなく、工事が始まる前と工事中の最低2回は行っていただきたい。

A. 西置賜行政組合との連携がうまくいかなかった部分があった。本庁舎の建設にあたってはしっかりと説明会を実施したいと考えている。

Q. 経済成長は無理な時代に入ったと感じている。その中で、国と町の借金を合わせると一人当たり約868万、町の財政については税収が約11億、積立金は約8億5千万となっているが、経済の面についてどのように認識しているか。

A. 町の財政状況について、町の現在の借金は約94億ある。内容については、そのほとんどが過疎債となっている。過疎債は7割が地方交付税に入り、実質の償還は3割。さらに、平成25年、26年に発生した災害においては、それぞれ5%と3%の町の持ち出しがあり、災害復旧事業債という若干の借金が生じた。加えて、地方交付税が足りないということで、国が100%補償する臨時財政対策債というものがあり、これらを除くと約64億が借金ということになる。そして、その内の27%の約18億が町の実質の借金であると認識している。さらに、町の積み立ては現在27億5千万あり、まちづくり複合施設の中での公共施設整備基金は8億5千万を積んでいることになっている。町の財政は好転させていただいており、実質公債比率は22%から8.8%の見込みとなっている。今後、人口が減少していく中での不安はあるが、税収についてはプラスの方向にきている。

Q. 下山区においては、庁舎の建設が必要であるという賛同者がいない。その部分については区長会の中でも大きな課題となっているが、勉強会が1回しか行われておらず、なおかつ質問に対して納得いく回答がない上、賛同意見も無かった。複合施設の話になると、発言が少なかったり、いろいろと疑問視する声が聞こえる。その中で、この度の町長の提案理由が、町民の将来のために本当に必要なものであったという回答を区にすることができない。議会が十分に議論した上で進行しているのかについても疑問に思っている。20億をどのように生かすのかについて疑問が残り、一般の反応を見ると、「決まった」ことへのあきらめや無関心な反応もある。今までの積み上げは生かされることだと思うが、場合によっては議論のやり直しも必要だと思う。

A. 中央公民館のアスベストの問題から東日本大震災の発生までを含め、まちづくり座談会の中で4年ほど説明させていただいてきて、議会の中にも特別委員会を設置させていただいて検討させていただいてきた。その中で、100%とはいかないが、ご理解をいただきながら粛々と手続きを踏まさせていただいてきた。東日本大震災の発生、そして熊本地震による被災地の被害を見たとき、IS値については中央公民館が0.36、役場庁舎が0.37と、基準を下回っており、町民の皆さんの安心・安全を確保する拠点としての施設づくりをさせていただきたいとご説明させていただいてきた。そのような、一つひとつの手続きを踏んできたということをご理解いただきたい。

Q. 新庁舎は既存の土地に新設するということが、工事中の行政サービスについてはどうなるのか。例えば仮庁舎を建てることになれば、その部分の税負担に影響があるのか。

A. 現在の庁舎及び中央公民館は、新しい施設が完成し、引っ越ししてから最後に解体するので、工事中は既存の施設で現在と同様の行政サービスを行わせていただく。ただし、現在の分庁舎の部分については敷地を使うので、建設水道課のみ現在の消防分署及び中央公民館の中に移転する予定になっている。そのため、仮施設は作らないので税負担が増えることはない。

Q. 2つの小会議室が防災センターとなるようだが、どのような機能を果たすことになるのか。

A. 災害が発生した際の指令を行う部分については、どこまで機能を充実させていくのか防災管財係と相談している。設備については、消防分署と連携を取り、町民の皆さんから意見をいただきながら、実施設計の中で考えていく。

Q. バイオマスボイラーを導入するにあたり、木質チップ工場を造る予定はあるのか。南陽生コンのところに積んである丸太との関連も含めて教えていただきたい。

A. 工場を造りたいという業者が何社かいるが、チップの販売先を含めて検討いただきたいと説明している。今年、白鷹・長井・飯豊の製材業者が共同で町内に木材乾燥施設を造ることが決定しているが、そこで端材が出ればチップにも回していけるし、それがきっかけとなって木材産業の雇用の場も増えていくのではないかと思う。

Q. 町民会議のメンバーが公表されなかった理由を教えてください。

A. 町民会議のメンバーは町民の方で構成され、公募と推薦で決定した。名前

を公表しなかった件については、会議の中で自由な意見を出していただくため、名前を公表されると困るという方もいたから。ただし、メンバー全員からの了承を得て、今現在は町のホームページ上で全 29 人の名前を公表しているので、必要であればご確認いただきたい。

Q. 複合施設の建設は、なぜ今なのか。今後 30 年以内に震度 6 強の地震が発生する確率は 0.02%と聞いている。その中で、熊本地震の被災地と同じ断層帯にあり、被害を連想させるような説明は適格だと思うが、耐震補強への対応が示されていないというのは町民の考えを狭めているように思う。区長会連合会においても、勉強不足で納得していないので、対応をお願いしたい。

A. 耐震には、中央公民館で約 8 億、役場庁舎で約 5 億の費用がかかると説明させていただいてきた。役場庁舎においては、1 階部分が中に入っている構造なので、両側から鉄骨を入れることになれば事務所としての使い方も非常に大変になるということも説明させていただいた。その中で最終的に決断をしなければならない状況で、いかに町民の皆さんの負担を軽減する方法がベストなのかを検討し、議会特別委員会の中で議論させていただいてきた。また、町民 29 人の参画をいただき、議論を重ねてきたうえでの原案をつくらせていただいて、一歩前に進んだところである。そういった積み上げにより、自信をもって進めさせていただいているのでご理解いただきたい。

Q. 最上川の舟下りについて、世界遺産に登録していただきたいと申請したが認定されなかった。白鷹町の観光資源を増やす意味でも、最上川の舟下りを 10 kmまでできないか。

A. 鮎まつりのときに舟下りをできないかと提案したが、国交省からは、今の状況では危険がともなうため簡単に許可することはできないという話をいただいた。しかし、せつかくの美しい景観があるわけなので、舟下りとはいかなくても最上川を主軸にした観光を検討させていただきたい。

Q. 菖蒲からあゆ茶屋までのフットパスがまだ完成していない。先日、国土交通省のフットパス関係の担当者に現地調査していただいた。あゆ茶屋までつながって初めて観光の目玉となると思うので、対応していただきたい。

A. 下山公民館からあゆ茶屋までの区間が未整備となっている。以前、国土交通省の担当者に来ていただき、地域の中での方向性を出していただきたいという話だったが、考えがまとまらず今の状況のままとなっている。なお、その時点からある程度の時間も経過しているので、国土交通省にもう一度相談させていただいてご返事させていただきたい。

座長：地域おこし協力隊が町内で活躍しているが、もし荒砥地区に協力隊が来ていただいたとき、どのような活動をしていただきたいか。

Q. 昨年のコミセンのワークショップで同様の話を聞いているが、その集約はご覧になってないのか。

A. コミセンの役員には集約したものを配布しているが、意見が多くて取りまとめしきれなかった部分がある。

Q. 集約したものをさらに絞ってみてはどうか。

座長：今後どのように詰めていくかについては未調整の部分があるが、ある一定の方向はもっている。

Q. 防災や科学的なところからの地域おこし、最上川から大きく飛躍できるようなプロジェクトになればよいと思っている。

座長：とりまとめでなくてもよいので、地域の課題について直にコミセンにお寄せいただきたい。

Q. 松枯れに関して、お深山の南側の一部、愛宕山から松岡方面にかけて松枯れが多く見受けられると感じている。町内の現状と対策について教えていただきたい。

A. 松枯れについては、県内では一旦落ち着いたが、ここ 2、3 年で再び増えてきた。町では、ふるさと森林公園周辺や鮎貝教育の森といった「守るべき松（保健保安林）」については毎年対応している。根絶することは難しいが、できることはやっていきたいと考えている。

Q. 複合施設の耐用年数を教えていただきたい。

A. 木造施設の法定耐用年数は 24 年となっている。これは税法上の耐用年数であり、24 年しか利用できないということではない。